

平成29年度事業計画

1 基本方針

まちを創る主人公・主体者は、わたしたち高齢者です。

シルバー人材センターの会員になって「生きがい」と「社会的存在」を示し、一人ひとりの夕映えの輝きと証をつくりませんか。「働く喜び」「学ぶ喜び」「奉仕の喜び」の三つの理念を掲げて設立したのです。

さて、わが国は少子化と高齢化が同時に進行し、大きな問題になっています。昨年、敬老の日に総務省が発表した調査によると、高齢者人口は、3,461万人（男性1,499万人、女性1,962万人）総人口に占める割合は、27.3%で、過去最高となりました。

中標津町の平成29年の65歳以上の高齢者は、5,650人（男性2,513人、女性3,137人）で総人口の23.75%にあたり、年々高齢化が進んでいます。（中標津町の人口23,863人（男性11,663人、女性12,200人）平成29年1月31日現在）その意味で、高齢者の「生きがい」と「社会的存在」をつくる役割としてのシルバー人材センターの存在は、ますます重要になってきています。

平成27年2月12日の国会において安倍首相が「柔軟かつ多様な働き方」の中で、「高齢者の皆さんに、多様な就業機会を提供する、シルバー人材センターには、更にその機能を発揮してもらいます。」と演説されました。

このように「シルバー人材センター」の名を出された施政方針は初めてです。

国がいかにシルバー人材センターに大きな期待を寄せられていることがわかります。

2 実施方針

① シルバー人材センターは公益社団法人です

シルバー人材センターは、「高齢者等の雇用の安定等に関する法律」に基づき、都道府県知事の指定を受けている団体で、国及び地方公共団体から補助金を交付されている公益性の極めて高い公益社団法人です。

② 会員の加入と就業機会の拡大

地域社会に貢献できるシルバー人材センターとして、「生きがい」と「社会的存在」を求める、健康で意欲のある会員の入会促進をします。

と同時に、公共団体・一般企業・各家庭に対し、事業内容の理解につとめ、新

規の受注開拓を積極的に進めて行きたいと思えます。

③ 派遣事業の推進

今年度は現在の請負業務を基本にしながら、請負業務が法的遵守の立場から適当かどうか検討し、まぎらわしい業務は派遣業務（雇用契約、派遣先の指揮命令その他）に切り替え積極的に推進していきたい。

<現在の派遣先>

すぐる食品（株）、中標津町農協、ダイセルフアインケム（株）

東北海道いすゞ自動車（株）

④ NPO指定障がい福祉サービス

「森の家」「工房ういんくる」

支援と交流と連携を推進する。

高齢者一人ひとは、人生最後の時間と価値（智恵と情愛と経験）をいかに社会に奉仕するかがテーマである。

就労困難な障がい者の方々への働く場、社会参加の場を提供し、交流をはかっていきたい。

⑤ 安全就業の推進

就業中の事故防止や就業場所の往復途上の事故防止は、シルバーの最重要課題です。

会員はじめ役職員が一丸となって、安全就業基準の趣旨の徹底を図るよう啓発運動を実施し、安全就業推進委員会を中心に就業現場のパトロール等を実施し、会員の就業にかかわる安全確保に一層の注意をはらわなければなりません。

⑥ 事業の普及啓発の推進

シルバー人材センターの活動をアピールするため、各種イベントに積極的に参加し、町民との交流と親睦をはかりたいと思えます。

啓発の媒介として、役場の広報誌「なかしべつ」や町内会の回覧板に活動内容を掲載します。

特に、シルバーのユニークな活動を創出し、マスコミ（道新、釧新）に取り上げてもらい、活動をアピールしています。

さらに、会員一人ひとりがシルバーを創出する経営者として位置づけて、責任と自覚を持って行動して欲しいと思えます。

3 実施計画

① 高齢者活躍人材育成事業「技能講習会」の実施

会員が就業に必要な技能・技術・知識を習得する講習を北海道労働局から受託し実施する。

剪定講習会を次の日程と内容で実施する

日 程 6月、11月（年2回）

人 数 10人以上

場 所 町内の幼稚園、小中学校、垣根、公園
道道（空港～バイパスの植樹帯）

② 安全就業講習会

シルバー人材センターは、安全が全てに優先します。会員の就業に伴う事故を未然に防止するためにも安全就業の意識化が重要です。

会員の安全遵守の義務、安全の心得について今までの経験の事例にもとづいて話し合っていきたいと思います。

③ 「もっと元気にいきいきと」健康教室の実施

安全就業の基本は、会員一人ひとりがいかに健康であるかです。石田病院（石田康雄院長）のご厚意で実施されている「もっと元気にいきいきと」健康教室は、今年で13年目を迎えます。

先生の講話、相談コーナー、血圧測定、さらに理学療法士の健康維持体操と多彩で、楽しい教室です。

- ・「もっと元気にいきいきと」健康教室&野外健康教室

開 催 6月、11月（全2回）

場 所 シルバー研修センター

内 容 石田院長講話、血圧測定、理学療法士・作業療法士の健康体操 他

- ・第12回「健康まつり」

開 催 4月中旬

場 所 経済センター

規 模 会員全員参加

内 容 午前10時半～午後12時

楽しい健康遊び

午後1時～午後2時

血圧測定、理学療法士・作業療法士の健康体操

④ 親睦と交流の集い

1年の総括は「親睦と交流の集い」で集約です。

「あんなこと、こんなこと」の思い出を集めて楽しい時間をつくります。

町長はじめ10数名の来賓の出席を頂き、100名規模の盛大な集いです。

開 催 12月中旬

⑤ そば打ち教室

冬期の研修にそば打ち教室（2回）を実施します。

そば打ちの一連の作業は、運動機能を刺激し、健康機能につながります。

参加者みんなで地元産のそば粉でそばを打ち、食べ、和気あいあい楽しい時間をつくります。そば打ち五段の講師 岡部監事の巧みな弁舌と技術で「水回し」

「練り」「のし」「切り」の工程を体験します。

4 シルバーライフスクールの充実

社会は急速に変化し、高齢者といえども社会の働きに無関心ではられません。

社会の動きに主体的に対処し、自らの良い生き方をするには、常に学習し、社会参加をしなければ、生活を充実させることはできないものです。

そのためにも、シルバーライフスクールを充実させ、生涯学習の場と機会の拠点に位置付けます。

① 学習の取り組みと運営

- ・会員自ら自己啓発を促進し、生涯社会参加をする。
- ・学習内容や方法は、会員のニーズを集め、カリキュラムを編成する。
- ・教育委員会、公民館、保健センターなどの各団体機関と連携する。

② ボランティア活動と社会参加

町内の行事や、地域環境美化活動・その他の行事に積極的に参加し、世代間交流を図り、高齢者の存在をアピールします。

5 花でまちを創る

「心のふるさととは在るのではなく、みんなで汗を流して創るものです」そんな心意気をもって、花いっぱい運動を展開しています。

- ・花でまちをいっぱいにし、孫達への贈り物にしたい。
- ・花のあるまちづくりは、より快適な生活環境をつくりだし、訪れる人には、好印象を与え、まちのイメージアップになる。

① 花で道を彩る

(1) バイパスのコスモスロード ～今やまちのシンボルロード～

国道272号線バイパス植樹帯約3キロにわたってのコスモスロードは、秋には赤やピンク、白い花が咲き乱れ色彩が歩道に反射し、「潤い」と「情感」をかもし出し、まちのシンボルになっています。

ここは北海道開発局の進めている「ボランティアサポートプログラム」とシルバーが連動し、北海道でもユニークな国道植樹帯の花いっぱい運動を展開している。

(2) コスモスの里づくり

心のふるさととは在るものではなく、みんなで汗を流して創るものです。空港前に広さ約7000㎡のコスモスの里づくりに参加し、子どもたちが胸をはってふるさと中標津を語れる、そんなコスモスの里を創ってやりたいと思います。

ここは道立「ゆめの森公園」とドッキングさせ活動を展開している。

(3) 花のじゅうたんプロジェクト

北海道の事業である「花のじゅうたんプロジェクト」事業（中標津空港からバイパスにつながる沿道の景観）に、シルバーの会員が参加し、土木現業所職員と花の苗約2,000株を植樹帯に植え込み、行政と住民の共同の取り組みとして新聞に大きく取上げられている。

マリーゴールドを栽培し、シルバー独自の「花の苗づくり」に約2万株でボランティア活動の花の苗の植え込みを連動させました。

ひとつの現場に約60数名の会員が就業（5日間）できる価値ある場所となっています。

(4) 街並みを花で飾る

- ・ 空港前のコスモスの里づくり～観照寺前のロータリー～道立「ゆめの森」公園入り口前～役場の坂通り～標津川大橋の植樹帯。
- ・ 役場前～消防署前～農協～7条通り。
- ・ 南3丁目（高校坂～神社前～文化会館～東19条通り）
- ・ 高校の坂道（郵便局～高校前）
- ・ 東13条通り農協横南2丁目通り。
- ・ 東小・広陵中学校通学路にコスモスロード

6 ボランティア活動

「まちを創る主人公・主体者は、わたしたち高齢者です」ボランティア活動を中心とした展開こそ、当センターの最大なるテーマです。

ボランティア活動は、地域社会にシルバー事業の普及啓発を図ると共に、地域貢献によって社会とのつながりを深め、相互に理解・協力関係を築いていくことができます。

① 福祉もちつきの集い

平成5年の創立から実施している「福祉もちつきの集い」は、当シルバー人材センターの年中行事の一つです。

森の家の障がい者や独居老人宅に紅白のもちを配り大変喜ばれ、まさに「春の使者」となっています。

② 愛のネットワーク

平成5年度からの委託事業である障害者や独居老人宅の除雪とあわせ、宅配おしゃべり「愛のネットワーク」を実施しています。

高齢化社会をむかえ、高齢者の問題はできるだけ高齢者で解決することが大事であると思います。

今後ますます増加する傾向にあり、高齢者同士の「やさしさ」と「思いやり」の連携で継続していきたくです。

③ 第13回タワラマップ川「河童まつり」

「まちの中を流れるタワラマップ川の清流は私たちのふるさとです」と長年にわたって清掃活動とイベントを展開してきました。

河童まつりは今年で13回目を迎えます。昨年12回目は約300名の親子連れが参加し、放流ヤマベ800匹をタモ網ですくい合い、水中メガネ、水車、笹舟遊びに興じ、水しぶきの歓声となりました。

さらに小学校対象の水辺学習教室の支援活動等が評価され、北海道で初めて「市民活動団体草刈りボランティア」の指定を受け、年5回タワラマップ川周辺約5,000㎡の草刈り業務を委託されました。

この制度は、市民団体の活動に対し、実費程度支払われ、河川環境と保存管理を目的とし、現在、河川敷や堤防も草刈り業者から、シルバーの地域的・社会的ボランティア活動の実績に対し共感を得、結構な草刈り業務の受注となっています。

7 こども&高齢者交流館

公共施設である事務所の公益的有効活用として、こども&高齢者の交流の場所として活用する。

・小林竹春「からくりおもちゃ館ラビッツ R a b b i t s」

小林竹春（館長）の「からくりおもちゃ約150点」と「城の模型」の作品は、町の財産である。趣味を生きがいに行っている高齢者のかくれた 作品に光をあて、世に出してやることは、高齢者の仲間としてシルバーの町づくりへの価値ある役割であり、存在となっています。

(1) 「からくりおもちゃ館 R a b b i t s」に

幼稚園、保育園の園児を招待する

教育交流事業の一環として、前年度に引き続き町内の幼稚園、保育園園児を「からくりおもちゃ館ラビッツ」に招待し、「からくりおもちゃ」の面白さ、仕組みの不思議さ、楽しさを体験させたい。

園児を通し、中標津にこんな素晴らしい場所があることを知ってもらい、「からくりおもちゃ館ラビッツ」の存在を広め、街づくりに寄与する。

(2) ビザなし交流

北方領土問題解決に寄与する目的として、北方領土在住ロシア人との「ビザなし交流事業」の見学コースに「からくりおもちゃ館」が位置づけられました。

これからも「ビザなし交流事業」に積極的に協力していきたいと思えます。

・平成28年度の数

ロシア人（親子）約20名、通訳・同行者10名 シルバー会員10名